

# 高姫西 SSH 通信

～データ活用を生かした課題研究～

vol.4 2020.9.18

## 【活動の記録】

6月から8月の国際理学科、普通科それぞれの学年別で活動内容を報告します。

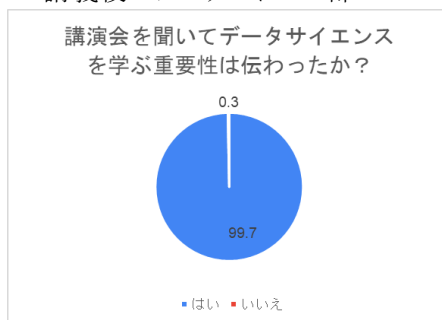
### ○1年生

#### 【全体】

##### 〈データサイエンスの必要性〉

滋賀大学学長 位田隆一先生による、データサイエンスとはなにか、データサイエンティストが何故必要なのか、今後姫路西高校と滋賀大学がどのように連携していくかを講義していただきました。

##### ▼講義後のアンケートの一部



##### 〈情報機器活用力〉

情報分野に関するエクセル操作を学び、表計算やグラフの作成など研究を分析、解析する手法を身につけた。

##### 〈データ分析力、解析力〉

兵庫県立大学社会情報科学部 笹嶋宗彦先生、帝国データバンク 大里隆也氏による過去の受賞作から見る分析手法および考察についての講義

##### ▼笹嶋先生の講義に聞き入る生徒たち



#### 【国際理学科】

8月3日(月)～7日(金)に、リモートによる京都大学研修を実施した。本校OBを含めた学生8名(ティーチングアシスタントTA)による課題研究指導を生徒が受け、最終日に研究発表を行い、京都大学の原良憲先生、嶋田敏先生、Spring Han先生からご指導いただいた。TAへの質問や先生方の前での発表は非常に積極的で、研究に対する分

析力や発信力が高まる有意義な研修であった。

### ○2年生

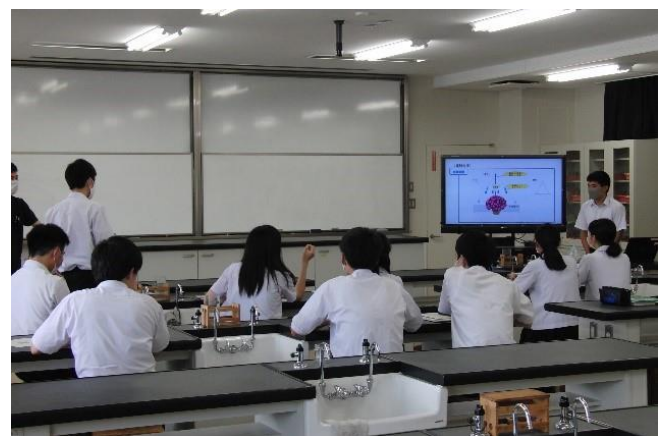
#### 【普通科】

データを扱うことでのストーリー工夫や、「仮説→データ解析→考察」を繰り返すことでの研究の発展性などを学んだ。また「RESAS」の活用法を学び、データサイエンスにおける研究の幅を広げた。また、夏季休業で本格的に課題研究に取り組むため計画書の作成をした。

#### 【国際理学科】

3年生の国際理学科をTAとして、2年生の各研究グループが中間発表会を行った。緊張感をもって発表する2年生と、自分たちの経験から助言する3年生のそれぞれに課題研究に対する成長ぶりがうかがえた。また『情報開発実践』のグループは、神戸学院大学経営学部の宮本行庸先生から助言をいただき、研究活動を深めた。

##### ▼2年生の中間発表会で3年生が助言している様子



##### ▼1年生の京都大学研修での研究発表の様子

